

## 学校経営のポイント

### 『青少年白書』が訴える子どもの現状

若井 彌一

最近の新聞報道によれば、6月24日の閣議において、平成15年版『青少年の現状と施策』が担当大臣（構造改革特区担当大臣）により報告・了承された。

今回は、その報告書に見られる要点を紹介し、各学校での検討課題の一助としたい。

#### “出会い系サイト”被害の増加が顕著

通称『青少年白書』と呼ばれるこの報告書では、「第1部・青少年の現状」の「第2章・青少年の健康と安全」において、「犯罪や虐待による被害の状況」（第3節）について説明している。

それによれば、平成14年中に少年が被害者となった刑法犯の認知件数は40万6,519件であり、前年比3,988件（1.0%）の減少である。

しかし、注目しなくてはならないのは、いわゆる“出会い系サイト”に関連した犯罪被害についてみると、“出会い系サイト”を利用した犯罪の被害に遭った少年は1,317人であり、前年比719人（120.2%）の増加となっていることである。

なお、「児童買春、児童ポルノに係る行為等の処罰及び児童の保護等に関する法律」（平成11年5月26日公布、法律第52号、同年11月1日施行）の違反行為による被害青少年数は、平成14年中1,690人である。

次に、児童虐待の状況も依然として深刻である。全国の児童相談所に寄せられた児童虐待に関する相談処理件数は2,000件を突破した平成7年度（2,722件）、8年度が4,102件、9年度5,352件、10年度6,932件、11年度1万1,631件、12年度1万7,725件、13年度2万3,274件というように推移している。

平成14年中、警察が検挙した児童虐待事件は172件、被害児童179人であり、そのうち39人（21.8%）は死亡していたという。

#### “不登校児童・生徒”も依然として増加中

報告書によれば、平成14年度に小・中学校を年間30日以上欠席（“不登校”=なんらかの心理的・情緒的・身体的あるいは社会的要因・背景により、児童・生徒が登校しないあるいはしたくてもできない状況にあること。病気・経済的理由によるものを除く）した児童・生徒数は、小学生2万6,511人（前年度比0.5%増）、中学生11万2,211人（前年度比4.0%増）である。

中学校の場合、全生徒数に占める割合が平成6年度（1.32%）以降、1.42、1.65、1.89、2.32、2.45、2.63、2.81（13年度）と増加を続けており、小学校（13年度0.36%）に比べて高水準であることが特徴的である。

自校の児童・生徒は、この1学期間、多くが意欲をもって学校で学んだであろうか。全国的な概況を参考にしながら、各学校では夏休みを迎えるにあたり、児童・生徒の保護者に対して、児童・生徒が1学期をふり返り、次学期への英気を養う好機とすることができるように配慮してもらうための情報提供と、学校としての基本方針を明確に提示することに努めたい。

地域（学区）住民に対する協力依頼文書の内容も、学校教職員の教育的情熱が伝わるものとなるように工夫を試みたい。（わかい・やいち=上越教育大学教授）

本紙バックナンバーはホームページでご覧ください。

<http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>

#### ●新刊案内●

最新刊・好評発売中！【付・学術資料CD-ROM】

教育開発研究所刊

なぜ不登校に？不登校中何を考えどう行動したか、学校・教師に何をしてほしかったか？どう乗り越えたか

## 『不登校—その後』

不登校経験者260名が語る心理と行動の軌跡  
【編著】森田 洋司（大阪市立大学大学院教授）

●『不登校に関する追跡調査報告書』ほか不登校関連学術資料をCD-ROMに完全収録！ A5判290頁・定価2730円